



ヴァイオリン奏者

かまだ こうたろう 鎌田 鴻太郎さん

ヴァイオリンを始めたのは6歳の時。幼稚園の音楽鑑賞会でヴァイオリンの演奏を初めて目にし、自分でも演奏してみたいと思いましたが、習い始めてからは週1回のレッスンと毎日の自主トレで技術を磨き、小学6年生の時に「南日本音楽コンクール」で優秀賞を受賞。しかし、その後出場した「全日本学生音楽コンクール」の予選では惨敗し、初めて挫折を経験しました。これを機に一から基礎を見つめ直し、プロを意識した練習

を行うようになりました。中学校に上がってからは、レッスンと並行して「MBCユースオーケストラ」に入団。自分と同年代の人が集まって一つの音楽を奏することに感銘を受け、オーケストラのヴァイオリン奏者になりたいという思いが強くなりました。一方で、厳しい世界であることも分かっていたので、音大に進学しヴァイオリンの道に進むかどうかの葛藤もありました。

の夏。コンクールの副賞として「霧島国際音楽祭」に出演した際に、「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」のコンサートマスターであるダニエル・ゲート氏にお会いし、自分もオーケストラのコンサートマスターになりたいと決心しました。それからは受験に向けて猛練習した結果、なんとか愛知県立芸術大学に進学。4年間で大学のオーケストラでコンサートマスターを経験するなど、さらに様々な経験を積んだ後に、昨年4月にプロオーケストラである「広島交響楽団」のオーディションを受けました。倍率は約80倍という難関でしたが無事に合格することができ、昨年12月から正式に入団となりました。

まだ未熟な面もありますが、これからは楽団の一員として日々勉強しながら、海外留学やコンクールでのタイトル獲得を目指し、自分の夢である背中で楽団を引っ張っていけるようなコンサートマスターになれるよう頑張ります。

※オーケストラの各奏者を統率して、指揮者の意図を音楽に具現する役職。「第2の指揮者」とも言われる。



▲広島交響楽団
ホームページ



【右】「広島交響楽団」の演奏会での様子。年間100公演ほどを行う。

【左】小学3～6年生の時に所属していた「鹿屋オーケストラ」の定期演奏会での1枚。

information

本市出身の22歳。幼少期からヴァイオリン漬けの毎日で、中学では毎週鹿児島市、高校では毎週埼玉県にレッスンに通った経験があるほど。釣りが好きで鹿屋に帰ったら必ず釣りに行っているほか、今は広島県の釣りスポットを開拓中。